

異常な長時間残業をなくせ！

いのちと健康を守る
活動に全力あげる

八尾市職労

多くの職員が長時間残業をしている八尾市役所の本庁職場



子育て世代の職員に 過重労働が集中

「まるでモグラたたきをしているみたいだ」と語る市職労書記次長の岩狹匡志さん。長時間残業がひどい職場を問題にして取り上げると、その職場はいったんは治まりますが、こんどは別の職場で問題が発生。この繰り返しです。「誰かが倒れてからでは遅い」。人員が減らされ続ける中、労働安全衛生活動は手をゆるめられません。

後期高齢者医療制度を担当する健康保険課の職場では、窓口に殺到する市民の対応に忙殺され、多くの職員が健康不安を訴える事態に。子育て支援課の職場では、妊婦の職員が、産休に入る直前の月に厚生労働省が「過重労働」と認定する45時間以上の残業をしていました。「年間の超過勤務が883時間。年次有給

休暇の取得1・5日。夏期休暇取得ゼロ」。これは、昨年度（2007年度）に最高の長時間勤務をした職員の記録です。この職員は議会事務局に勤める女性でした。

「女性職員でも、月の残業時間が80時間を超える人が少なくありません。過重労働は男女とも30歳代から40歳代前半の子育て世代に集中しています。育児のための部分休業すら申請しにくいという声も職場から出ています」と市職労女性部長の今戸法子さんは訴えます。

長時間労働が蔓延する根本原因は人員不足。市民税課では職員一人あたりの住民数は府下で最高になっています。

人員不足を補うために窓口業務に民間から派遣労働者を導入した職場もありました。しかし、大変な激務に「続けられない」と、年度途中で派遣労働者が辞めてしまったといいます。

超過勤務の実態を ニュースで全職員に

市職労は労働安全衛生活動を重視し、市の安全衛生委員会を毎月開催させています。委員会では職員一人ひとりの超過勤務の記録を当局に提出させ、職場ごとに問題点を検討し

ます。議事録は公開し、当局が提出した残業記録は、市職労の組合ニュースで全職員に知らせます。職場の反響は大きく、掲載されるのを嫌がる所属長もいます。実態を全職員に知らせることで、労働安全衛生活動に積極的に取り組む職場も生まれてきました。

10月29日、安全衛生委員会の本庁

部会では、全員一致で「意見書」を提出しました。当局が毎週水曜日の「ノー残業デー」を、週2日に追加実施（金曜日）することに對して、「職場の巡回指導の強化」「過重労働縮減のための職場実態の把握」「人事担当課から所属長への指導の徹底」を求めています。

いことを祈る気持ちで、日々安全衛生活動に取り組んでいます。組合として人員増を要求するとともに、休日出勤の上限設定をはじめ、過重労働を規制する実効ある措置を当局に求めています」と語る岩狹さん。職員のいのちと健康の守り手として、市職労の存在はますます重要になっています。

いま大阪府の職場では…

精神疾患の休業者が、10年前の2倍に急増！ 原因は、長時間過密労働と人事評価制度

府庁の職場では、精神疾患による休職者が10年間で倍増しています。1997年度に病気で7日以上休職した職員数は932人。うち99人が精神疾患（府立5病院も含む人数）でしたが、昨年度（2007年度）は休職者が603人。そのうち精神疾患は200人（独法化された府立5病院を除く人数）にのぼっています。大幅な人員削減による長時間・過密労働、2000年から導入された「人事評価制度」で人間関係がギクシャクするなど、職場環境の悪化が要因と考えられます。

月80時間以上の超過勤務者も増えています。厚生労働省の基準により、産業医による保健指導を受けた所属長は今年度（2008年度）の上半期で51人（うち43人は昨年度も指導）、職員では279人（うち126人は昨年度も指導）と大幅に増大。本格予算の作成と臨時府議会への対応、維新プログラム策定による業務量の増大が原因です。特に、総務部・健康福祉部・都市整備部・教育委員会の超過勤務者数が突出しています。

府職労 諸悪の根源・橋下「行革」の撤回を求める

産業医は、10月の安全衛生協議会で、「職場の雰囲気がいいところは、所属長が仕事の内容を把握して指導ができています。そうでない職場はストレスが倍増する」と、職場環境が心の健康にもつながっていることを指摘しています。

大阪府では休職者の職場復帰を支援するプログラムを昨年4月に作成しました。しかし、復帰だけではなく、厚労省指針にもとづく「心の健康づくり計画」を盛り込み、より予防に重点を置く内容に改定していく必要があります。

府職労は、メンタルヘルス・健康管理の充実を当局に求め、労働安全衛生活動を強化するとともに、人件費削減の撤回、人員増で長時間過密労働の解消など労働条件の改善をめざし、諸悪の根源である橋下「行革」を撤回させる闘いを強化しています。

休業者数とそのうち精神疾患による人数・日数

年 度	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07
全休業者数(人)	932	916	822	848	720	811	760	658	717	518	585
精神疾患による休業者数(人)	99	129	106	140	146	124	158	160	182	140	181
精神疾患による平均休業日数(日)	124	100	149	131	107	124	137	146	142	146	143
全体（病院含む）										病院除く	



府民、子ども、職員に犠牲をおしつける
橋下「行革」に怒りの声が高まっています

今月のキーワード

キング牧師

1950～60年代、公民権運動の指導者的役割を果たした米国の牧師。1963年に行われたワシントン大行進で「I have a dream（私には夢がある）」と演説し、人種差別撤廃を訴えたことで有名です。1964年にノーベル平和賞を受賞しました。米国史上初めてアフリカ系（黒人）の大統領が誕生したことから、あらためてその功績に光が当てられています。

今月のキーワード

総合周産期母子医療センター

産科と新生児科が組み合わされた医療施設で、切迫流産や胎児異常など危険度が高い妊婦と新生児に対応します。妊婦の集中治療室を6床以上、新生児集中治療室を9床以上設置する総合センターは大阪に5施設。それに近い設備をもつ地域センターは13施設あります。リスクの高い出産に対応できるように体制の充実が求められています。